



▲市電の貸切電車車内での懇談会の様子

地域の歴史や特色はさまざまです。その中で、多様な価値観を持つ人たちが共に暮らしており、それぞれの地域が抱える課題や、住み良い地域のあり方も一様ではありません。

現在、地域活動を行っている人たちは、どのような地域の課題を解決しようとする取り組みをしているのでしょうか。

多くの人に地域の
魅力を知ってほしい



地域への関心や愛着があればこそ、地域が抱える課題が見え、その解決に取り組む意欲がわくものです。

特に、マンション建設が相次ぐ中央区では、新旧の住民

が一体となって住み良い地域づくりに取り組むことが必要となっています。

このため、住民自ら地域をよく知り、互いに住み良い地域のあり方について意見を出し合って考えようとする活動が広がっています。

昨年十月、「市電の通る街西創成地区を振り返る」と題して行われたまちづくり懇談会もその一つです。

西創成地区は、すすきのや狸小路周辺の商業の街として古くから発展してきた地域です。バブル経済崩壊後は空地が目立ちましたが、近年、大型ビルや賃貸マンションの建設が進み、地域環境が大きく変わることが予想されます。

今回の懇談会は、西創成地区の自治組織である社団法人西創成親和会が、地域の文化的財産といえる市電への関心を高めるとともに、地域の姿を考えようと企画したものです。

参加者は、会場となった市電の貸切電車に揺られながら、市の職員による市電に関する**出前講座**(※)と、北海学園大学教授によるまちづくり講座の講演を聴き、地域のまちづくりについての意見を交



▲市電の絵原画展(区役所ロビー)の様子

わしました。

また、同会が懇談会に合わせて、区役所と区民センターで開催した「**チンチン電車の通る街**」市電の絵原画展は、地区の住民だけでなく、多くの市民の目を楽しませていました。

こうした活動が、多くの人に地域のことを考える機会を提供しています。



※出前講座

市の職員が、市の事業などのテーマについて、地域に向いて説明を行う事業です。

同様に、区の職員が、区の事業や地域に関して、説明を行う事業として「**中央区ふれあい便**」があります。



▲▼今年度新たに始まった「曙ほのぼのルーム」

この街で安心して
子育てをしたい



少子化や都市化が進む現代社会は、子育てをする方が孤立しやすい状況にあります。

また、中央区は市外から転入する方が多いため、身近に子育てを支えてくれる人がいない、他の子育て家庭と交流する機会がないと悩む方も少なくありません。

こうした場合に地域で応援しようと、民生児童委員や子育てボランティア、福祉のまち推進センターで活動している地域の方などが、子育て家庭の交流の場を設ける地域が増えていきます。身近な地区のまちづくりセンターや児童会館を使い、たくさんの方の遊具などを

を留意して、地域の親子を迎えています。この取り組みは、気軽に他の子育て家庭と交流できたり、子どもを遊具で遊ばせたりできるとあって、大変喜ばれています。

参加者の中には、ここでの出会いをきっかけにして、自分たちで子育てサークルをつくり、さらに交流を深める人たちもいます。

一つの地域活動が、地域に新たな人の輪を広げる場にもなっているのです。

その他の
子育て家庭の交流の場

ここで紹介した地域主催による子育て家庭の交流の場のほか、区が主催する「**子育てサロン**」もあります。

